

# 昔ばなしの おもしろさの秘密

13 (2004年冬)号より10年にわたり連載いただいた「誌上講座 昔ばなしセミナー」がこの号をもって最終回となります。40回の講座を通し、昔ばなしのさまざまな法則を見てきました。世界的に共通した法則を持つ昔ばなしは、はるか昔から、人々の口から口へと伝わってきました。最終回では改めて、小澤先生に昔ばなしの魅力をお話しいたしましょう。



小澤 俊夫 おざわ・としお

小澤昔ばなし研究所所長、筑波大学名誉教授。1992年より全国各地で昔ばなし大学を主宰。また、季刊誌「子どもと昔話」を刊行し、独自の昔ばなし研究と実践を展開。2007年ヨーロッパ・メルヒエン賞（ヴァルター・カーン財団）受賞。著書も多数。



イラスト/サナン

昔話には独特のおもしろさがあります。そのおもしろさは、出来事や出来事の連なりであるストーリーによることももちろんですが、もうひとつ、独特な語り口によって生まれているのです。そしてその語り口には一定の法則が働いています。それは昔話の語り口の文法と書いていいほどはつきりしていて、しかも広く諸民族に共通性が見られるのです。

昔話の研究には民俗学的研究、文学との関わりを調べる研究、民俗や宗教との関わりを調べる研究など、いろいろありますが、昔話の語り口そのものの研究、いわば昔話の文芸学的研究は非常に困難なため、世界的に見てもなかなか進みませんでした。

それを切り拓いたのはスイスのマックス・リュティでした。彼は1947年、『ヨーロッパの昔話―その形式と本質』（訳／小澤俊夫、岩崎美術社）という論文を発表し、ヨーロッパのメルヒエンの文芸としての特質を明らかにしたのでした。昔話の語り口は単純明快で、抽象性という原理のもとにあるというのです。

彼の研究はヨーロッパのメルヒエンの分析から生まれたものではありませんが、私は、日本の昔話調査の体験と、稲田浩二さんと共同責任者として編纂した『日本昔話通観』（同朋舎出版）において、昔話のモチーフ

分析をした経験を通して、日本の昔話にもマックス・リュティがいうヨーロッパのメルヒエンの文法が、基本的にはあることを確認しました。

そして、ヨーロッパ以外の諸民族の昔話については、『世界の民話』新装版（ぎょうせい 全24巻）の翻訳と解説の仕事の際に、ほとんど、どの民族の昔話にも基本的には共通の文法があることを確認したのでした。

なぜ、世界の諸民族の昔話に共通の文法が働いているのか。これは大きな問題ですが、その答えは実は簡単で、「昔話はこの民族でも口伝えだったから」ということに尽きると思います。つまり、耳で聞くため、その表現は、写実的な詳しいものではなく、単純明快でなければならなかったのです。

ところが、昔話を実際に子どもたちに届けられる本や絵本では、昔話独特の単純明快な語り口でなく、目で読む文学の文体になっていることが多いことに気がきました。多くの児童文学は生活や人間関係や町の様子を、なるべく事実近くに描きます。もちろんそこにファンタジーも加えられますが、作法の基本は具象的だし、感情移入的です。それに対して、口伝えである昔話は、抽象的で、非感情移入的なのです。ひと口にいえば、文芸のジャンルとしては創作児童文学と昔話は別物なのです。

おめでとう!

JBBY 40周年

イエラ・レップマンの遺したもの

※1 JBBY (日本国際児童図書評議会)

は1974年の創立以来、今年で40周年を迎えます。

「子どもの本を通しての国際理解」を目的とした※2 IBBY

の支部として、創設者イエラ・レップマンの遺志を

継いで活動してきたこれまでと、今後の抱負を会長の板東悠美子さんに伺います。



イエラ・レップマン  
(1891~1970年)

レップマンは「この混乱した世界を正常に戻すために、まず子どもたちから始めさせてください」と声をあげた。

その後、ドイツ占領地での連合軍による「女性と子どものための文化的・教育的な問題改善のためのアドヴァイザー」として、ドイツに派遣されました。終戦のその秋に、自分のふるさとに帰ってみると、町は壊滅状態で、大きなショックを受けるわけです。当然のことながら、子どもたちは飢えているし、悲惨な状態を目にします。彼女はそれを見て、自分のやるべきことは何かを考え、子ども



I B B Y は、1953年にスイスのチューリッヒで設立された団体ですが、イエラ・レップマンという女性の存在なしには語ることができません。

レップマンはドイツに生まれ、新聞社に勤務するジャーナリストでした。ところが、彼女はユダヤ系だったので、ナチスが台頭してきたときに、子どもを連れてロンドンに亡命し、そこで終戦を迎えます。

のために何が必要かと思いつくが、食べものが不足して誰もがおなかをすかしているけれど、欠乏しているのは食べものだけではなく、それを上回るほどの精神の支えが必要だったのです。何か心の糧になるものはないかと考えたとき、心を癒すのは本であるという思いに至ります。

そのための本をどうするか。ナチス政権下では本はほとんど焼かれました。図書館も機能していません。そこで彼女が思い立ったのは、当時のヨーロッパやアメリカの政治家や首脳たちに、「平和というならまず子どもたちから始めさせてください」という熱いメッセージを送ることでした。送り先は27カ国に及びました。

そして、善意で集まった本を基に子どものための図書館をドイツ国内で巡回したのです。レップマンは本を力信じ、すぐれた子どもの本を通して、子どもたちを「心の飢え」から救うことができると確信していました。展示会場で、絵本を見る子どもたちにはもちろん、親までも目がキラキラと輝いていました。本を通して、想像をふくらませ、知らない国のことを知ることができる。本によって、子どもたちの世界観が変わる、このような図書館を開催する意義が認められ、この巡回図書館は大成功をおさめました。

図書館が終わると、その本をどう

するか決めねばなりません。そして、子どもや研究者に貢献できるように、ミュンヘンにある貴族の館だったカール宮殿を図書館として使わせてもらうことになるのです。49年9月のことでした。これがミュンヘン国際児童図書館です。現在はミュンヘン郊外のブルーテンブルグ城に移されています。

その後、紆余曲折を経て、53年にスイスのチューリッヒで会議が開かれます。そこで図書館だけでよしとするのではなく、もっともつと平和活用してもらうためにも、良書の普及や児童文学をいろんな形で応援するたためにも、世界中の人たちが集まるひとつの組織が必要だろうということになります。こうしてできたのが、I B B Y なんです。そのとき参加したのはヨーロッパが中心で、30カ国でした。今では77カ国が加盟し、各国に支部が置かれています。レップマンの遺志を受け継ぎ、子どもの本を通して国際理解を深め、平和に貢献できるように国際交流活動を続けています。



『子どもの本は世界の架け橋』

著/イエラ・レップマン  
訳/森本 真実  
2,000円 (こくま社)

※1 Japanese Board on Books for Young People  
※2 International Board on Books for Young People



この人にあれもこれも

絵本作家さん  
こんにちわ!



「くつやのねこ」  
などおなじみ!

いまい あやのさん

PROFILE

いまい・あやの  
1980年イギリス・ロンドン生まれ。イギリス、アメリカ、日本で育つ。武威野美術大学にて日本画を学ぶ。2003年にポローニャ国際絵本原画展に初入選（以降2004、2005、2006、2009、2012年度入選）。2006年『The 108th Sheep』（英・Bloomsbury社）にて絵本デビュー。

重なり合う物語

イタリア・ポローニャ国際絵本原画展において6回もの入賞、スロヴァキア・ブラティスラヴァ世界絵本原画展では子ども審査員賞を受賞。国際的に実力を評価され活躍するいまいあやのさんをご紹介します。

撮影／石川 正勝 取材・文／菅原 千賀子

いろんなものに憧れていた  
小さいころの私

小さいころの私は、いろんなものに憧れていたようです。母に聞いてみると、そのことから「画家になりたい」とも言っていたらしく、家の中ではよくひとりで馬の絵を描いていましたね。あのフォルム（形）の美しさが好きだったんです。だから、馬にもなりたかった。両親は「馬に乗りたかったんだね」と理解、いや誤解していたようですが……。

ロンドンで生まれ、7歳までイギリスで、その後、日本とアメリカで育ちました。どの家にもいつもそばに緑がありました。イギリスでは目の前に大木がある家で、リスが遊びまわっている。アメリカではたくさんの木に包まれているような家。それぞれの窓から見えた緑の景色の記憶は、色濃く心に残っています。

絵本はよく読んでもらいました。英語の本は自分で読んでいたようです。やさしいタッチの「スノーマン」や「木のうた」がお気に入り。それから、ジュディス・カーの「モグ」シリーズ。ホワイトソックスのネコが主人公で、いろんなお菓子も描かれているのですが、その絵がとっても魅力的でした。「ちびくろさんぼ」の「どらのバターのホットケーキ」もそう、食べものの絵にはなぜだかひかれてしまいますね。

孫と一緒に楽しもう!

# 育ジイ・育バア の読みきかせ



育児に参加する父親はイクメンと呼ばれていますが、  
孫育てに積極的に参戦するおじいちゃん・おばあちゃんを育ジイ・育バアと呼び、近ごろ急増中！  
みなさん、絵本は孫と一緒に時間を楽しくするひとつのツールになりますよ！

撮影／石川 正勝 取材・文／菅原 千賀子 (P48～49)



## 中川ひろたかさん

長女うみさんの第二子・央くん(3歳)と、長男かいくんの第二子・晃太郎くん(6カ月)のジイジである中川ひろたかさん。うみさんも、かいくんも、央くんも、みんな絵本の主人公になりました。中川さんのジイジっぷりを拝見！

孫たちには確実に自分の何かが  
伝わっている気がするんだ

孫にはあんまり会ってないんだよね(笑)。央くんも晃くんも近くに住んでいるけど、ぼくの家を中心に誰かの誕生日に会うとか、正月に会うとかで、それほど頻繁に会うわけじゃないんだ。

よく孫のほうの手放しでかわいいつていうじゃない？ なんかね。自分の分身みたいな雰囲気や、子どものときより思うんだよ。

なんて言うんだろう。子どものときには、あんまりそんなふうには思わなかったんだけど、確実にこう、自分の中の何かが伝わっているっていう感じがね。すごくする。これは孫のとき、はじめて思ったね。

だから、逆に自分のおじいちゃんとか、親のことにも思いがいて、代々受けつがれて、今の自分があるんだなってことを、子どもるときより強く感じる。DNA的に考えても、確実に何かが伝わっているはずじゃない？

とくに初孫の央くんを見ると、自分分みたいな気がするんだ(笑)。央くんの体が自分分みたいな感じがするの。もう、ぎゅっとハグしたい気持ちになるんだけど、なかなかさせてくれないんだよなあ(笑)。央くん、今はお母さんのうみちゃんが大好きだから。

ぼくがつくった絵本を孫たちに読むかって？ 限定はしてないよ(笑)。絵本を読むときは、好きで持ってくる本を読むという感じじゃないかな。

でも、本人たちは知らないうちにぼくが書いた本を好きでいてくれるわけ。ジイジが書いた本だなんて知らないで読んでいて、おまけに保育園で、ジイジがつくった歌を歌っている。それはなんていうのかな。ぼくのDNAはもろろんだけれど、つくったものがそうやって伝わっていくというのには、作家冥利につきる！ 何ものにもかえがたいことで、いいだろー!! って言いたくなるよね(笑)。



なかがわ・ひろたか / 1954年生まれ。絵本作家、シンガーソングライター。保育士として勤務したのち、はじめての絵本『さつまのおいも』(童心社)を発表。子どもの歌専門のレーベルを設立。絵本の著作は190冊以上、作詞作曲は約2,200曲、CDは約90アイテム。

「あんよ あんよ」「あった あった」「あむ あむ」「いこいこか」「すべてあかね書房」は、央くんが主人公の赤ちゃん絵本なんだけど、長女と長男が主人公の絵本もあって、央くんがはじめてではないんだ。

谷川俊太郎さんがお子さんを主人公にした「しのはきよろきよ」と「けんはへっちゃら」(ともにあかね書房)という絵本を出しているんだけど、それにちよつと憧れていたところがあってね。

長女が生まれてチャンスだったんで、つくったのが「うみちゃんのまど」(偕成社)。これは、長新太さんが絵を描いてくれたんだ。うみちゃんが主人公の絵本を書いたんだから、長男にもつくってあげないとなあと、思うでしょ？ 本人が小学校4年生くらいのとき、「どんな絵本がいいかなあ？」と言ったら、長男がひと言、「かいくんのおさんぽ」と言ったの。じゃあ、そのタイトルからつくろうと思って書いたのが、そのまんま「かいくんのおさんぽ」(岩崎書店)。

おはなしの内容は、かいくんがお散歩の途中にいろいろなものをゲッ

# 著作権保護コンテンツ

## 「ニワシドリのひみつ 庭師鳥は芸術家」

オーストラリアとその北のニューギニアに住むニワシドリという鳥の仲間は、「あずまや」という不思議な形のものをつくります。オスだけがなぜつくるのか？どんな理由があるのか？6万kmもの行程を取材に費やし、この鳥の秘密をさぐった迫力を感じます。



文・絵/鈴木 まもる  
1,600円(岩崎書店)

## 「きせきのお花畑」

南極からやってきた冷たい海流と、暑い砂漠とが合って生まれた霧を「カマンチャカ」といいます。それは砂に眠っていた多くの植物の種を目覚めさせ、砂漠の花を咲かせてくれます。一年に一度だけ訪れるその時間は、奇跡の物語のようです。



著/藤原 幸一  
1,400円(アリス館)

## 「パパはわるもの チャンピオン」

悪者レスラーがパパの仕事です。ぼくは応援に行きました。卑怯だと言われるけどパパはとてもカッコ良かったです。友だちに内緒だから大きな声で応援できないけど、悪者チャンピオンになりました。でも、マスクをとると、おどけたぼくのパパです。



作/板橋 雅弘  
絵/吉田 尚令  
1,300円(岩崎書店)

## 「どろんこ どろんこやあ」

ネコのどろんこやあは、どろんこ遊びが大好きなので、雨上がりの公園に出かけます。どろんこの公園で、泥遊びが大好きな仲間を発見。一緒に、泥だらけになって、泥だんごをつくり、泥のプールで泳いだり、日が暮れるまで遊ぶのでした。



作/ささき みお  
1,300円(アリス館)

## 「おやすみ おやすみ」

「おやすみなさい」は、眠るときのごあいさつ。ハトは体を寄せ合って、魚は水草の中、目と口をパクリ開けたままです。ウマやアザラシ、バッタにクモ、生きものたちはそれぞれ、ゆったり、ぐっすり……。そして、子どもたちはふとんの中で、おやすみなさい！



文/シャーロット・ソロトウ  
絵/ウラジーミル・ポプリ  
訳/ふしみ みさを  
1,400円(岩波書店)

## 「はのはのはなし」

こうたの奥歯に、葉っぱが生えてきました。太陽の光をあて風通しをよくし、たくさんの栄養分を与えたのに、葉っぱが生えた奥歯は抜けてしまいます。でも庭では、その葉っぱが育ち、歯のようなおいしい実をつけ、こうたには、大人の歯が生えてきました。



文/中西 翠  
絵/山本 孝  
1,400円(アリス館)

2014年3〜5月に発売された新刊絵本の中から、読みかきせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。プレゼント応募はアンケート用紙、またはウェブから。

もう読んだ？

ゼーんぶプレゼント

新刊

100!!

※出版社五十音順

👶 マークは乳幼児から、

🎓 は中・高校生も楽しめる本です。

## 「どんぐりころころ」

おやまへかえる だいさくせん

童謡「どんぐりころころ」は、どんぐりがお山に帰りたいと泣く場面で終わります。そんな歌の続きを描いたのが、この絵本です。ハラハラドキドキの冒険をしながら、お山へ帰るどんぐり。歌いながら親子で楽しめる絵本です。



作・絵/スギヤマ カナヨ  
1,200円(赤ちゃんとママ社)

## 「こんや、妖怪がやってくる」

村を襲う、ざんばら髪で青黒い顔の恐ろしい妖怪に、子ウシを食べられて悲しむお婆あさん。話を聞いた卵やぞうきん、カエル、こん棒、火ばさみ、ウシのふん、石のローラーたちがそれぞれの特徴を発揮して、退治してしまいます。



文/君島 久子  
絵/小野 かおる  
1,500円(岩波書店)

## 「かみなりなんて こわくない」

嵐の夜、どんなにかみなりが鳴ってもお気に入りの本とクマのフレッドがいれば大丈夫です。でもイヌが怖がっているのでベッドに入れてあげました。そうしたら怖がりやさんが次々にやってきて、とうとうベッドは満員になってしまいました。



文/ジェミー・A・スウェンソン  
絵/デイヴィッド・ウォーカー  
訳/ひがし かずこ  
1,100円(岩崎書店)

## 「トーラとパパの夏休み」

待ちに待ったパパとの夏休みが、やってきました。いつもパソコンやスマホばかり相手しているパパも、森でキャンプをすれば冒険を楽しんでくれるでしょう。でも、想像力豊かなトーラとパパでは、景色の見え方や考え方が違うようです。



文/リーサ・モローニ  
絵/エヴァ・エリクソン  
訳/菱木 晃子  
1,300円  
(あすなろ書房)